



脱原発を実現するために、私たちは原発、火力の電気を使わず、太陽光発電だけで生活ができるのでしょうか。地域の電力として太陽光発電はどれだけ脱原発に寄与できるのでしょうか。原発部会が連携している伊勢崎放射能について学ぶ会(代表：小矢野敏雄。以下、放射能の会)が6月22日に行った会津電力雄国太陽光発電所視察と11月23日に行った公開企画(視察報告とシンポジウム)を通して太陽光発電の可能性と課題を考えてみます。(以下文責 坂田尚之)

会津電力雄国太陽光発電所の視察(2019/6/22)報告 (原田 喬)

太陽光発電所(メガソーラー)にはデメリット(景観問題、廃棄処理問題等)がありすぎて、否定されるべきものなのか?ととにかく実物を見られる絶好のチャンスだ。

会津盆地からどんどん山の方へ登っていく。遠くに見えていた太陽光パネルが近づいてきた。しかし、なぜか、これまで予想していた風景と違う!大規模太陽光発電所の写真を見るとパネルで山が覆われてしまうほどの印象であったが、それよりずっと素朴な印象であった。段々畑の終わりにある松などの樹木と一体になった感じであり、2740枚のパネルも密着でなくすきすきの感じであった。

その理由は二つ。一つは景観を壊さぬため、斜面の形はそのままにして残して利用する。そのためか1カ所に立って眺めてみても、全てを見渡せる配置にはなっていないわけだ(上写真)。二つめは、パネルを据え付ける架台がかなり高いのだ(右写真)。2.5から3.5mもある。



この地は冬は豪雪地帯だからだ。架台の下では、春から秋にかけては、稲、野菜などの作物もできるように考えられている。自然に溶け込んだパネルの配置など、人間や自然に優しい設計をしている。単なる企業的発想ではない点に、いたく感動した。

丘の頂上近くに建っている雄国大学という名称の研修施設である大きなログハウスのベランダから会津盆地を見下ろしていると、クリーンエネルギーへの想いが、世界中に広がるよう、夢と決意が膨らんでくるようだった。

シンポジウム「原発に代わる太陽光発電の可能性と課題」(2019/11/23)報告

原発部会2人、放射能の会1人と太陽光発電が専門の大和産業(株)さんを加えた4人のパネリストの方に発言していただきました。特に直接の業者である大和崇義さんの発言は太陽光発電の現状と今後について示唆に富むものでした。

(1)加納順子さん(原発部会員)

榛東村にはメガソーラーがありますが、下はバラスで自然破壊が心配です。3・11の時榛東村は自衛隊のため計画停電がなかったが、渋川の信号は点いていないし怖い思いをした。福島

のとき火をたいて湯を沸かしたというのも、オール電化の人はそういう発想にならないと思う。太陽光発電は太陽の恵みだけけれど、あまり電気に頼り過ぎない方が良いのではないかと思います。

(2) 原田喬さん(原発部会員)

国の政策が、もっと人々の生活に目を向けると太陽光、自然エネルギーというものも生きるのではないかと思う。今は金銭的に+か-かで、それで本当に地域が潤うのか。地域全体で物事を考える時、経済的視点に負けてしまわないように、地域の住民が集まって議論を起こすと良いなど。ただどうやってやろうかなということを考えています。

(3) 森村圭介さん(放射能の会会員)

当初東京電力は使いたくないなと思っていたのですが、3・11 があって太陽光発電を入れ

たのです。自然エネルギーは無限ですから。水を飲まないで死にます。家の井戸を動かせるようにしました。伊勢崎市の緊急メールに加入しました。自分が電気を作るときの一つの災害対応かなと思います。



***** (4) 大和崇義さん(大和産業(株)) ***** 山肌までパネルの理由(わけ)

自然エネルギーはなかなか普及しなかったので、投資目的でどんどん入れてもらおうと、経済産業省が固定価格買取制度(FIT 制度 2012年7月)を始める3年前に高い補助金と高めの買取価格を設定したために、山肌削ったりして一気にできてしまいました。しかし、今はそれができないように規制があります。パネルの廃棄も今では国内に最終処分場が作られ、再利用されています。パネルの買取業者がいて、この辺だと長野県にあります。

ワット(kW)で電気を買わずに生活できます。一般の個人では3~5キロのタイプ100~200万くらいのもので損することはありません。

「なるほど、自前の電気で済めば原発はいらない。ポイントは、高性能で安価な蓄電池の開発でしょうか。」

太陽光発電以外の必要性

国の施策について、私も原発反対派なんで納得いかない所があります。パリ協定の温室効果ガスを減らすという目的から提案しているのは原発ありきの案。国の計画では太陽光について14%くらい太陽光になる予想だが、ドイツではソーラーパネル以外の再生可能エネルギーに力を注いでいるのが実情だと思います。日本もそれをしなけりゃいけないのではないかと。

「なるほど、風力、小水力、バイオマスなど検討し、一種類の巨大電源に頼る危険性は避ける必要がある。」

太陽光発電の有効性

台風15号で千葉では送電線が切れて停電が長く続いたが、自宅に太陽光があれば発電して使うということができた。また、もし地域に発電所があって災害時に生き残ってれば使えますよという送電網があれば良いが、今はない。この現状を変えてゆけば、皆さんも安全安心の生活ができるのでは。

「なるほど、首都圏から遠い南房総に発電所と送電線(ハワ-グリッド)があったなら…。電力を地産地消できる制度や仕組みが必要か。」

ソーラー入れる費用と意義

瓦屋根設置時の雨漏りは技術的に進歩していて、どこでも問題なく施工できます。新築の8割が検討し5割が導入している。蓄電池があれば5~6キロ



企業も子どもも意識の変革

一般企業ではRE100(RenewableEnergy100%)、再生可能エネルギー100パーセント使用を目指す動きがある。原発、エネルギーに対して意識が変わっていけば良いなと思っています。また、私の子どもの小中学校では、太陽光の課題を出してたりしているので、若い人たちも意識がだいぶ変わってくるんじゃないかと前向きに思っています。

「より安全で持続可能な(孫子に引き継げる)エネルギーの在り方をみんなで考え実行してゆくことが脱原発には必要なことですね」